

仲間と記念撮影に臨む15回生



卒業60年 絆いつまでも

松本深志高校を昭和38(1963)年に卒業した15回生でつくる「深志第15回あきつ会」はこのほど、卒業60周年記念式典と総会を松本市里山辺の旅館・旬彩月の静香で開いた。県内外から57人が集い、旧交を温めた。来年の傘寿を節目に全体的な
た会えるように頑張りたい」と呼び掛けた。
恩師の小野朋土さん(92)「塩尻市北小野」もお祝いに駆け付け、今春に紫綬褒章を受章した免疫学者の高津聖志さんがスピーチした。皆で声高らかに校歌を歌って記念

深志高15回生のあきつ会が式典

活動一区切り

活動を一区切りしつつ、変わらぬ絆を誓い合った。冒頭にこの10年で亡くなった31人に黙とうをささげた。原宏實会長(78)「松本市新村」は記念誌発刊など60年の歩みを振り返り、仲間感謝し「心ゆくまで自分の時間を生き、10年後にまた。」(田中千絵)

撮影もした。

45年以上発行している「あきつ会通信」や同会ホームページは当面継続する。金岩博司事務局長(79)「松本市美須々」は「会えなくても情報交換や交流の場として継続できた」と話している。

↑市民タイムスオリジナル 第2班の写真のみ
↓写真部分を編集した

